

あとがき

『牧園町郷土誌』は、昭和四十四年に発刊され、その後、昭和五十六年に町制四十周年を記念して、郷土誌研究家窪田伸市郎委員を中心に改訂執筆がなされています。

たまたま、平成二年が町制五十周年に当たり、町制五十周年記念事業の一環として、町郷土誌改訂の運びとなり、平成二年三月に改訂の骨子ができあがり、同年四月に、前郷土誌編集委員を中心に、窪田伸市郎委員、今別府元委員、前田俊明委員、深迫敦雄委員、小谷重義委員、廣山忠義委員が委嘱されて、平成三年八月刊行をめどに平成二年四月から編集作業に着手しました。

基本的な編集方針として、(1)既刊誌を土台として尊重しながら、過去十年間の産業・経済・社会の変遷した事象や、不足の部分を補足する。(2)図表や写真を多くし、できるだけ用語や文章を分かりやすく、現代的で親しまれる読み物とする。このような基本事項を確認して編集作業を進めましたが、わずか一年余りの短時日で脱稿、印刷の段階に入ることができたのは、執筆者各位の熱意と努力はもちろん、既刊郷土誌の原文や、写真・資料などを多用できたためであり、既刊誌の編集に当たられた諸氏に深く感謝し、心から敬意を表します。

委員各位には、一〇回以上の会議に出席いただき、資料の収集、原稿の執筆、写真的撮影など、昼夜を分かたずに奔走していただいたおかげで、九〇〇ページに及ぶ、すばらしい郷土誌の完成を見ることができました

ことに対し、深甚なる謝意を表します。

また、ここに至るまでには、多くの機関・団体・個人の方々による資料の提供、ご援助とご教示を頂いたことに対しても心から感謝申し上げます。

終わりに、完べきを期したつもりでも、あれこれ不備や欠陥があり、ご期待に添えなかつたことをおわびします。なにごとに「真実を求めましたが、完全はあり得ない」ことをご理解いただき、寛大にご容赦ください。本誌が広く町民の皆様に愛読活用され、牧園町の活性化、発展に役立てばこの上もない幸せであります。

また、刊行について、適切なアドバイスを頂きました第一法規出版株式会社に対し心からお礼申し上げます。

平成三年四月十日

牧園町郷土誌編集委員会事務局

万造寺 美 行



万造寺

今別府

深迫

窪田

小谷

前田

梶原

廣山



現教育長　迫田育郎

現町役場各課長



後列左から

宇都口・長崎・曾山・宮原(広)・芦谷・黒木・川野
二列目

梶原・宮原(満)・大重・堀之内

前列左から

永吉・篠永・山内・繁田

年 表

年 号	西暦	事 項
昭和 57	1982	多目的営農研修施設完成（中津川）。第16回全日本高等学校馬術競技大会牧園牧場で開催。
〃 58	1983	関平温泉飲料水化施設完成。牧園町青少年健全育成町民会議発足。
〃 59	1984	小谷大橋完成。第35回全国植樹祭、天皇陛下自然教育の森で杉苗お手植え。
〃 60	1985	町立学校給食センター完成。第1回鹿児島県レクリエーション大会を保養センターで開催。三体太鼓踊り復活。霧島スカイライン無料化。
〃 61	1986	栗川大橋完成。横瀬地震。第1回霧島高原ジャンピングスマーフェスティバル開催。総合運動場建設開始。九面太鼓に女子部誕生。
〃 62	1987	三体幼稚園木造園舎完成。第1回霧島高原サイクルジャンボリー開催。
〃 63	1988	日の出温泉「きのこの里」完成。役場事務コンピューター化。関平鉱泉新販売所完成。牧園高校馬術部全国馬術大会で優勝。万膳小学校新校舎完成。町新庁舎用地買収始まる。
平成 元	1989	坂本龍馬・お龍像完成。界子仏・高天原遺跡発掘調査。
〃 2	1990	大関霧島関誕生。殿湯大橋完成。日本一大茶樹全国植樹祭会場へ移植。県茶葉振興大会牧園町で開催。中園遺跡発掘調査。町福祉の里オープン（塩浸温泉）。町営牧場四十周年記念。町制五十周年記念式典。牧園町総合振興計画策定。
〃 3	1991	大関霧島大相撲初場所で優勝。湾岸戦争（84日）。ディ・サービス事業開始。町新庁舎着工。

年 表

年 号	西暦	事 項
昭和 41	1966	牧園高校畜産科募集停止。カラーテレビ本放送開始。
〃 42	1967	宿窪田～安楽間バイパス開通。
〃 44	1969	牧園高校畜産科最終卒業式。町内中学校 6 校を統合し牧園中学校発足。中学校跡に役場移転。 小浜町（長崎県）霧島町・牧園町三町姉妹盟約。
〃 45	1970	町総合振興計画樹立。町制三十周年。
〃 46	1971	大型農道起工。台風19号による大災害発生、死者 7 人、被害総額 9 億4,000万円。
〃 47	1972	国民休養地建設始まる。国体開催に伴い本町で体力医学会開催。町政週報発行。し尿処理場（牧園・横川町衛生管理組合）開設（宿窪田）。鹿児島空港（溝辺）開港。
〃 48	1973	土地開発公社発足本町加入。国分北消防署（高千穂小谷）開設。国民休養地開設。文化財保護運動発足。大霧開拓団二十五周年記念式。
〃 49	1974	第1回霧島競馬（牧園牧場）開催。
〃 51	1976	各校区に公民館組織完成。住民生活相談室スタート。 関平温泉の施設その他一切が完全に町有となる。 町文化協会発足。九面太鼓神宮奉納で初登場。
〃 52	1977	広域農道牧園～栗野間開通。第11回全日本高校馬術競技大会（牧園牧場）に常陸宮殿下御来町。馬込地区の甌穴群、曾我どん墓（宝篋印塔）を町文化財に指定。
〃 53	1978	北始良清掃センター竣工操業開始（万膳）。雇用促進住宅牧園宿舎竣工（高千穂）。中津川小学校屋内体育館落成。 県農村センター、農業大学校となる。
〃 54	1979	牧園町老人福祉センター完成（宿窪田）。三体小学校屋内体育館落成。高千穂授産所閉鎖。農村婦人の家竣工発足（万膳）。伊佐・北始良火葬場（菱刈）管理組合に本町加入発足。
〃 55	1980	牧園町総合振興計画策定。万膳小学校屋内体育館落成。 生活改善センター落成発足（三体堂）。持松小学校屋内体育館起工式。B & G 財団牧園海洋センター落成発足（高千穂）。町制四十周年記念祭（町民憲章、町民歌、まきぞの音頭発表）。「馬の温泉」町営牧場に完成。町商工会館完成。塩浸温泉センター改築（完成）。第1回霧島国際音楽祭開催。
〃 56	1981	持松校区公民館落成（持松）。高千穂校区自治公民館区域編成替え（4 地区を 8 地区に編成）。青少年の家完成。持松小学校屋内運動場落成。郷土誌改訂版千部発行。

年 表

年 号	西暦	事 項
昭和 2	1927	鹿児島線を肥薩線と改める。
〃 4	1929	林田温泉発見。与謝野夫妻霧島來訪。
〃 6	1931	満州事変起る。
〃 9	1934	霧島国立公園指定される。塩浸発電所送電開始。
〃 10	1935	天皇陛下行幸される。
〃 12	1937	日華事変（日中戦争）。
〃 14	1939	第二次世界大戦。
〃 15	1940	牧園町制施行。町觀光協会発足。任意団体として、町商工会発足。
〃 16	1941	太平洋戦争開戦。町森林組合設立。
〃 17	1942	持松・笹段～霧島間道路開通。
〃 20	1945	空襲により牧園駅前戦災。太平洋戦争終結。 県立加治木中・女学校牧園分校開設。米海兵隊鹿児島市進駐。
〃 21	1946	和氣神社建立（中津川犬飼）。桜島噴火。新憲法公布。
〃 22	1947	下中津川飛地を大字高千穂とする。 各校区に新制中学校創立。初の知事・市町村長公選。
〃 23	1948	県立加治木高校分校（全日制）に新たに町立定時制牧園高校を併設。町農業協同組合設立。町農業共済組合独立。
〃 24	1949	加治木高校牧園分校、県立牧園高校として独立。 ジュディス台風により旧硫黄谷温泉全壊。国立鹿大発足。
〃 25	1950	農林省鹿児島種馬所廃止、牧園町営牧場として経営開始。 総合運動場起工。町上水道工事着工。
〃 27	1952	定時制牧園高校農業科を畜産科に改める。町営住宅建設着工。
〃 28	1953	町営牧場軽種馬育成開始。中津川地区水道施設竣工。
〃 29	1954	牧園高校講堂落成。持松・三体・万膳・高千穂の各中学校独立校となる。新湯災害発生（台風5号）死者9人。
〃 30	1955	関平温泉の泉源を町に払い下げ。町奨学資金制度発足。
〃 31	1956	万膳地区・牧園地区水道施設竣工。桜島大爆発。
〃 32	1957	町営牧場、綿羊70頭講入。鹿児島市鴨池空港開港。
〃 34	1959	新燃岳爆発。条例改正により議員定数20人とする。
〃 35	1960	農村センター創設。町章決定。国民健康保険制度発足。 町制二十周年記念事業。町広報1号発行。町商工会発足。
〃 36	1961	国民年金制度発足。町体協発足。霧島スカイライン開通。
〃 37	1962	牧園駅を「霧島西口駅」と改名。有線放送開始。 皇太子御夫妻御来町、林田に一泊される。
〃 39	1964	霧島・屋久国立公園と改称。

年 号	西暦	事 項
明治 2	1869	常備隊をおく。版籍奉還。
〃 4	1871	廃藩置県。踊郷正則学校発足。 踊(牧園)は都城県に編入。郡長・戸長をおく。 外城常備隊解散。
〃 6	1873	美々津、都城県廃止。踊(牧園)鹿児島県となる。第25郷校発足。
〃 8	1875	新湯温泉発見。踊郵便所創始。
〃 10	1877	西南の役。
〃 13	1880	霧島山噴火(御鉢爆発)。県会議員選挙。
〃 16	1883	宿窪田・三体・万膳と下中津川・上中津川・持松の2か村に分かれる。
〃 17	1884	浅谷用水路竣工。
〃 21	1888	霧島山噴火(降灰4、5里に及ぶ)。
〃 22	1889	町村制実施。踊郷を牧園村と改め、宿窪田以下6か村を大字に改め、村役場をおく。霧島山噴火(響激雷の如し)。
〃 23	1890	衆議院選挙。第1回帝国議会。教育勅語発布。
〃 24	1891	霧島山噴火(降灰のため草木枯れる)。
〃 27	1894	清国に対し宣戦布告、翌年講和。
〃 28	1895	霧島山噴火(家屋22軒、4人惨死)。
〃 29	1896	国立種馬牧場牧園村に開設。桑原郡、姶良郡となる。 霧島山噴火。
〃 30	1897	八代～鹿児島間鉄道敷設起工。
〃 31	1898	霧島山噴火(宮崎・松山・高知で爆音を聞く)。
〃 33	1900	同上(5人の死傷者あり)。
〃 34	1901	間手原温泉(間手原)発見。鹿児島～国分間鉄道開通。
〃 36	1903	国分～吉松鉄道開通。製材所浅谷に開設。
〃 37	1904	日露戦争、翌年講和。
〃 38	1905	ラムネ温泉発見。霧島山噴火。
〃 40	1907	鹿児島種馬所と改称(高千穂)。
〃 41	1908	牧園駅営業開始。義務教育4年から6年へ延長。
〃 42	1909	八代～鹿児島間鉄道全線開通。
大正 2	1913	霧島山噴火。
〃 3	1914	霧島山噴火(1月8日)。桜島大爆発(1月12日)。 第一次世界大戦。
〃 5	1916	水力発電工事開始。
〃 10	1921	妙見発電所送電開始。
〃 12	1923	ノカイドウ、天然記念物に指定される。
〃 13	1924	小作争議(清水・国分・東襲山)。

年 表

年 号	西暦	事 項
寛延	3 1750	玄竜寺墓石銘。
宝暦	2 1752	折橋温泉発見。
〃	3 1753	木曾川治水工事手伝いの幕命を受ける。
〃	5 1755	木曾川治水工事完成。
〃	12 1762	中津川小前の田の神。
明和	4 1767	板碑（三体堂・永岩下の田のあぜ）。
〃	5 1768	7年間の嚴重儉約を達せられる。
〃	6 1769	栗川の田の神。
〃	8 1771	霧島山噴火（降灰数里の田埋没。草木焦げ枯れる）。 聖神社（横瀬）創建。
安永	3 1774	再度の7年間の儉約を達せられる。
〃	4 1775	石敢当（持松甲辺）碑銘。
〃	8 1779	玄竜寺墓石銘。桜島噴火死者150人余。つぶれ家500戸。
〃	9 1780	外城衆中を郷土と改む。
天明	7 1787	玄竜寺墓石銘。重豪隠居、齊宣襲封。
寛政	5 1793	「成形図説」編集始まる（重豪、白尾国柱に命ず）。
〃	12 1800	浜之市（隼人）新田竣工。
文化	2 1805	温泉神社（安楽）境内石碑銘。
〃	3 1806	塩浸温泉発見。
〃	6 1809	齊宣隠居、齊興襲封。
〃	8 1811	日の出温泉発見（文政3年ともいう）。
〃	11 1814	田原の田の神。
〃	12 1815	田の神像（横瀬）。水神（城ヶ後）碑銘。
文政	2 1819	丸尾温泉発見。
〃	4 1821	霧島山噴火（中岳の絶頂から発火……）。
〃	6 1823	花林長春（東郷源七郎の姉）墓碑銘。
〃	8 1825	阿久根郷土、宇治に赴き製茶法伝習、阿久根茶を名産とす。
天保	3 1832	閑平温泉発見。
〃	14 1843	『三国名勝図会』60巻成る。
嘉永	3 1850	山之湯温泉発見。
〃	4 1851	齊興隠居、齊彬公襲封。
〃	6 1853	ペリー来航。
安政	5 1858	齊彬没、忠徳（忠義）襲封。
万延	元 1860	桜田門外の変。有村治左エ門参加。
文久	2 1862	栗川温泉（高千穂）発見。寺田屋事件。生麦事件。
慶応	元 1865	横瀬温泉発見（上中津川）。
〃	2 1866	坂本龍馬夫妻塩浸温泉に湯治。犬飼滝など訪れる。
〃	3 1867	王政復古。大政奉還。

年 号	西暦	事 項
寛永	12 1635	牛馬改めをし、牛馬札交付される。
〃	13 1636	玄竜寺跡（三体堂音川山）墓石銘。加治木錢鑄造をやめる。
〃	17 1640	山ヶ野金山発見。
万治	2 1659	霧島山噴火～1661年に至る。
寛文	2 1662	同 上 ～1664年に至る。
〃	3 1663	加治木西別府川工事、新田開発。
〃	6 1666	飯富神社境内、奉寄進石碑銘。国分に新田高500石開発(新川による)。
〃	7 1667	水神（下中津川荒田橋）碑銘。
〃	8 1668	伊邪那岐神社境内の仁王像銘。
延宝	5 1677	霧島山噴火、翌年まで続く。
貞享	4 1687	光久隠居、孫綱貴継ぐ。
元禄	元 1688	鉢投温泉（三体堂）新納久辰増築。
〃	3 1690	霧島山噴火（降灰数日に及ぶ）。
〃	6 1693	板碑（三体堂さん角堂下）銘。鹿児島に大雨洪水。
〃	9 1696	鹿児島に大火、城の本丸以下焼失。
宝永	2 1705	霧島山噴火（神社塔焼失）。
〃	4 1707	玄竜寺墓地墓石銘（三体堂）。
〃	6 1709	同 上 。
〃	7 1710	殿湯温泉発見（享保のころともいいう）（高千穂）。
正徳	4 1714	硫黄谷温泉発見（高千穂）。
〃	5 1715	飯富神社境内、山の神碑銘。
享保	元 1716	霧島山噴火（降灰田畠埋没）。東郷源七郎墓舍利塔碑銘。
		荒神さあ（犬飼、満田氏宅庭）碑銘。
〃	2 1717	霧島山噴火（田畠埋没）。
〃	6 1721	吉貴隠居、継豊継ぐ。
〃	12 1727	諸外城飢饉、葛などを食料とする。
〃	13 1728	東光寺墓石銘（役場前）。前年来飢饉。
		板碑（宇都口・上井宅上の山林）銘。
〃	17 1732	西国筋一帯飢饉。薩摩は甘藷があるため飢民なし。
〃	20 1735	田の神像（堅神社境内）持松（県内で10位、町内の田の神像中一番古い）。
元文	元 1736	琉球から孟宗竹2本送られ、磯別邸に植栽される。
〃	5 1740	太良温泉発見（万膳）。
寛保	2 1742	墓石銘（三体宇都口、松田方前の田）。
延享	元 1744	栄之尾温泉発見（高千穂）。
〃	3 1746	島津継豊隠居、宗信襲封。
寛延	2 1749	水手屋敷1畝に付き、棕梠1本植え付けと定められる。

年 表

年 号	西暦	事 項
永禄	7 1564	義弘、加久藤、飯野に鎮し、夫人を加久藤におく。
〃	9 1566	霧島山噴火。義久、守護職を継ぐ。
〃	10 1567	義弘、踊を領す。
〃	12 1569	義久、肝付兼盛に上三体堂を加封。義弘、鉢投温泉を訪れる。
元亀	3 1572	木崎原の戦い、義弘、伊藤兵を破る。
天正	元 1573	肝付兼盛踊を領す。
〃	2 1574	霧島山噴火(天地震動す……)。
〃	4 1576	同 上(4年より6年に至り活動あり)
〃	10 1582	温泉神社修理(肝付彈正修理)。
〃	12 1584	家久、肥前有馬氏と竜造寺氏の兵と島原に戦い、竜造寺隆信を倒す。
〃	14 1586	肝付兼寛、踊(牧園)を領す。島津氏、九州制覇。
〃	15 1587	霧島山噴火。秀吉、出水に入る。島津氏、秀吉に降る。
〃	16 1588	同 上(申酉の間大地震)
〃	18 1590	秀吉、全国平定。義弘、飯野から栗野松尾城へ移る。
文禄	元 1592	文禄の役、義弘、栗野から出陣。
〃	4 1595	肝付兼三(三体堂領)を薩摩喜入に移す。義弘、栗野から帖佐に移る。薩・隅・日の文禄検地(石田三成)終わる。福永助十郎(田原)朝鮮の役で虎狩り。
慶長	3 1598	霧島山噴火(5年に至る)。秀吉死去。征明軍撤退開始。
〃	5 1600	関ヶ原の役。
〃	7 1602	津曲氏、 <small>あつから</small> として高山から来郷。家康、薩・隅・日所領安堵。
〃	11 1606	島津忠恒、家久と改名。国分梅木に煙草試植(服部宗重)。
〃	12 1607	義弘、平松から加治木に移住。
〃	18 1613	霧島山噴火(翌年まで続く)。
〃	19 1614	東郷源七郎忠直、三体堂村に移る。
元和	元 1615	霧島山噴火。一国一城の制定まる。
〃	3 1617	同 上(翌年まで続く)。
〃	6 1620	島津家久、源七郎忠直に三体堂村714石の地を与う。
〃	7 1621	東郷源七郎墓石銘(田原)。
〃	9 1623	持松村を踊郷に合併。踊郷創設(『県地名辞典』)。
寛永	元 1624	明ばん温泉発見(高千穂)。
〃	4 1627	家久、新納四郎忠直に三体堂村を与う～至1643年。
〃	5 1628	県下の田に虫害あり、翌年にかけて飢饉となる。
〃	9 1632	霧島山噴火(社寺宝物焼亡)。
		初めて一向宗改めをし、日向高原その他諸所の門徒を処分する。

年号	西暦	事項
弘安	4 1281	蒙古軍来襲（弘安の役）。
元弘	3 1333	鎌倉幕府滅亡。
建武	元 1334	建武の新政。島津貞久、大隅国守護職に補せられる。
〃	2 1335	横川町赤水の岩戸観音造立。このころ真幸院は日下部氏から北原氏へ。
延元	3 1338	足利尊氏、幕府創設。
〃	4 1339	栗野稻葉崎黄金塔建立。
正平	17 1362	白崎（持松）の宝塔。曾我どん墓（三体堂中福良）宝篋印塔（康安2年）。
〃	18 1363	島津師久（総州家）は薩摩国守護。島津氏久（奥州家）は大隅国守護。
元中	9 1392	南北朝合一。
応永	11 1404	幕府、島津元久を日向・大隅の守護に補する。
〃	16 1409	元久、薩摩守護職に補せられる。
〃	32 1425	島津忠国、薩・隅・日三国の守護職に補せられる。
永享	9 1437	伊邪那岐神社（妙見神社）税所介敦武建立。税所氏、踊を領す（永享中）。
応仁	元 1467	応仁の乱起る。
文明	15 1483	税所氏の没落。
永正	7 1510	このころ以降、薩・隅・日三国大いに乱れる。
大永	元 1521	白崎・持松、樺山長久（北郷資忠二男）所領。
〃	4 1524	霧島山噴火。
〃	6 1526	北原氏、踊（牧園）を領す。
〃	7 1527	勝久、貴久に家督を譲る。
享禄	元 1528	北原氏の最盛期、栗野・横川・踊（牧園）、北原氏領す。
天文	4 1535	北原兼守、踊（牧園）の領主。
〃	11 1542	島津忠良・貴久、北原祐兼と結ぶ。
〃	12 1543	鉄砲伝来（種子島）。
〃	18 1549	キリスト教伝来。世戸口・持松、北郷忠相所領。
〃	19 1550	北原兼親、踊（牧園）の領主。島津貴久、鹿児島城に入る。
〃	20 1551	下石坂甚介氏（石坂）先祖位牌銘。
〃	21 1552	豊神社（持松）、北郷忠相・忠親建立。
〃	23 1554	霧島山噴火。島津貴久、岩剣城攻囲、この合戦に島津軍鉄砲を使用し岩剣城落城。
永禄	5 1562	このころ北原氏に内訌あり。踊城（牧園）主白坂佐渡介、島津氏に降る。菱刈隆秋、島津氏に帰服、横川城を与えられる。
〃	6 1563	貴久、伊藤氏と戦い敗北。

年 表

年 号	西暦	事 項
天平 2	730	大隅・薩摩の百姓いまだ班田せず、旧に従って墾田を許す。
〃 12	740	藤原広嗣の乱に隼人軍先鋒となつて活躍。
〃 14	742	霧島山噴火。大隅国大地震。
〃 15	743	墾田永世私財法。
〃 18	746	日向国大暴風雨。養蚕損傷、調庸を免ぜられる。
天平勝宝 7	755	大隅国、菱刈郡を設置。
天平神護 2	766	道鏡法王となる。日・薩・隅大風、桑麻損す。柵戸の調庸を免ず。
神護景雲 3	769	和氣清麻呂、大隅(牧園町下中津川犬飼)に流される。
宝亀 元	770	和氣清麻呂配所より召し返さる。
〃 3	772	中臣習宜阿曾麻呂が大隅守となる。
延暦 7	788	霧島山大噴火(峰下5.6里沙石積もること2尺……)。
〃 10	791	豊後・日向・大隅など飢饉。
〃 13	794	奈良から京都(平安京)に遷都。
〃 19	800	大隅・薩摩両国百姓の墾田を收め、初めて班田を行う。
弘仁 6	815	薩摩の国、蝗害により田租を免ず。
延喜 元	901	飯富神社創立(応和年間961~963ともいう)。
天慶 8	945	霧島山噴火(猛火熾んにしてやまず……)。
応和 3	963	性空上人、霧島六社権現を開く。
治安 元	1021	税所篤如、正八幡宮並びに霧島宮司職に補任さる。
万寿 3	1026	平季基、島津荘を開発する。
天永 3	1112	霧島山噴火(西峰噴火、神社焼けず……)。
永久 元	1113	同上(社殿焼けず)。
康治 元	1142	安楽温泉発見。温泉神社創立。
応保 2	1162	条里制記録に、三体堂田初見。
仁安 2	1167	霧島山噴火(西生寺殿堂焼崩……)。
文治 元	1185	平氏滅亡。島津忠久、島津荘下司職に補任。
〃 2	1186	忠久、地頭職に封ぜらる。藤原篤頼、用松(持松)15町を領す(建久中)。
建久 3	1192	頼朝征夷大將軍、幕府創設。
〃 8	1197	薩・隅・日三州図田帳なる。
建仁 2	1202	八幡神社創立(万膳)。
承久 元	1219	源氏滅亡。承久のころ、横川藤兵衛尉時信、横川を領す。
〃 3	1221	承久の変。
文暦 元	1234	霧島山噴火(社寺什宝等焼失す)。
文永 11	1274	蒙古軍來襲(文永の役)。
建治 2	1276	博多湾防備の石築地造築始まる。持松15尺、上三体堂6尺、下三体堂6尺の造築割り當てあり。

◆牧園町郷土誌年表

——線は郷土関係

年号	西暦	事項
		縄文時代の土器破片、持松・三体堂・万膳地区の高原地帯から出土している。 • 7~8000年ほど前（早期）の土器 • 5~6000年ほど前（前期）の土器 • 4~5000年ほど前（中期）の土器 • 3~4000年ほど前（後期）の土器
	57	倭奴国、後漢に遣使。 熊襲背く。 日本武尊、 ^{たける} 川上泉帥を殺す。
	239	卑弥呼、魏に遣使。
允恭	元	額田部湯座連を薩摩に遣わし隼人を征した。 仏教伝来（552）。
敏達	14	敏達天皇の殯宮を隼人に守らせる。
大化	元	大化改新。
天武	元	この年、大隅台明寺が建てられる（国分）。
〃	11	隼人上京、方物を貢する。大隅隼人・阿多隼人の天覧相撲で大隅隼人が勝つ。
〃	14	天武天皇、畿内隼人の大隅直に忌寸の姓を賜う。
持統	6	筑紫大宰、河内王に詔して沙門を大隅と阿多に遣わし、仏教を伝えさせた。
文武	3	太宰府に三野（宮崎県）、 <u>稻積（牧園）</u> の二城を修築させる。
大宝	元	律令制度完成。
〃	2	唱更国内要害の地に柵を建て戍をおく。 薩摩・多々良両国創置。
和銅	3	隼人らに宴を賜い位を授け禄を賜う。平城京遷都。
〃	5	『古事記』完成。
〃	6	日向国肝付・贈於・大隅・姶良の四郡を割き大隅国をおく。
養老	4	『日本書紀』最終的にできあがる。隼人反乱、大隅国守陽候史麻呂殺さる。大伴旅人、隼人を征討。
〃	7	大隅・薩摩二国の隼人624人朝貢し、風俗歌舞を奏す。 三世一身法。

参考文献

日本の民話	椋 峰十	溝辺町郷土誌
日本の民俗	村田 澪	加治木郷土誌
神代三山陵	鹿児島県史談会	国分郷土誌
薩藩旧伝集	歴史図書社	志布志町誌
本居宣長全集	大野 普	郡山郷土史
しづのおだまき	白尾国柱	金峯町郷土誌
庚申信仰	平野 実	高山郷土誌
カヤカベ	竜谷大学	小浜町史談
神仏分離史料	辻善之助外	牧園町役場
宗教以前	NHK出版	同 上
上井覚兼日記	県図書館	同 上
称名墓誌	歴史図書社	一般時報
新七遺稿	有馬新七	文化牧園1~10号
都日記	同 上	町教育委員会
島津齊彬公	中村徳五郎	まきぞの40・50
西郷隆盛全集	村野守次外	広報まきぞの
坂本龍馬全集	宮地佐一郎	喜入町誌
坂本龍馬	八尋舜右	指宿市誌
竜馬がゆく	司馬遼太郎	高原町史
日本の合戦	高柳光寿	溝辺町郷土誌統編
鹿児島歳時12月	小野重朗	頴娃町郷土誌改訂版
日本隨筆大成	吉川弘文館	さんぎし(昭37)
斎藤茂吉全集23		鹿児島県地名大辞典
歌集高千穂	斎藤茂吉	角川書店
霧島の歌	与謝野寛	南九州のロマン
マウント霧島	山川鉄三郎外	中村明藏
加治木の太鼓おどり	県立図書館	日本の歴史
鹿児島の民俗探究	鹿児島民俗学会	日本史探訪
鹿児島民俗散歩	小野重朗	倭の女王卑弥呼
かごしまの方言集	黒木弥千代	卑弥呼の謎
島津家系図	尚古集成館	牧園町議会だより
薩藩叢書(3)	伊地知茂七	埋蔵文化財の知識
日本史用語大辞典(1)(2)	柏 書房	鹿児島県教育委員会
校誌「甲南」	甲南高校	牧園町埋蔵文化財発掘調査報告書
松山郷土誌		牧園町教育委員会
栗野町郷土誌		牧園町教育行政要覧
横川町郷土誌		〃
隼人郷土誌		
霧島町郷土誌		

◆牧園町郷土誌参考文献

縄文時代	鎌木義昌	鹿児島県史	鹿児島県
鹿児島県史料(旧記雑録)		西藩野史	得能通昭
三州諸家系図纂	川崎大十	鹿児島県遺跡地図	県教育委員会
薩隅日古戦場記	県図書館	鹿児島県遺跡地名表	同 上
薩隅沿革地図	鹿児島市	大隅国建久園田帳小考	五味克夫
地理纂考	樺山資雄	大隅の御家人について	同 上
薩陽武鑑	鮫島 某	薩摩の古府	藤井重寿
地誌備考和16冊	県図書館	高城国府	同 上
桑原郡地誌備考	同 上	薩摩国衙領考六題	同 上
薩摩銘鑒	同 上	大隅薩摩高城国府	同 上
かごしま古代地名考	平田信芳	鹿児島県埋蔵文化財発掘調査 報告書	県教育委員会
薩隅日地理纂考	鹿県教育会	和気清麻呂	平野邦雄
薩摩風土記	県図書館	平山泰介事績	山口雄一・森市介
諸家系図	同 上	神話と霧島	窪田伸市郎
本藩人物誌	同 上	鹿児島県災害史	鹿児島島測候所
和名抄	同 上	鹿児島県災異誌	鹿児島県
三国名勝団会	山本盛秀	鹿児島県政党史	薩藩史料調査会
日本書紀	山田秀雄	鹿児島県議会要覽	県図書館
古事記伝の研究		鹿児島県町村議員名鑑	同 上
熊本県の歴史	森田誠一	鹿児島県農業史	鹿大農学部
熊襲と隼人	井上辰雄	鹿児島県農業協同組合史	県農協
隼人の楯	中村明藏	鹿児島県畜産史	中村初枝外
鹿児島の歴史	県社会科教育研究会	鹿児島県神社一覧	県図書館
鹿児島県の歴史散歩		日本産業大系	地方史研協
	県高校歴史部会	薩隅煙草録	宮本又次外
歴史散歩事典	井上光貞	日本山林沿革史	桑幡福夫
鹿児島県の歴史	原口虎雄	種子島銃	洞 富雄
宮崎県の歴史	日高次吉	虎 狩	島津久通
日本史	井上光貞外	虎狩物語	同 上
日本史	宝月圭吾外	朝鮮征伐島津勢虎狩絵巻	村瀬宣得
図説歴史(上)	学習研究社	朝鮮国征伐記摺抜萃	県図書館
日本国家の起源	井上光貞	戦国島津戦記	松元十九
体系日本史叢書	森本義彰	地名どくほん	山崎盛隆
岩波講座日本歴史	岩波書店		

索引

— ロ —

- 老人福祉センター 545
六曜星 832
六觀音池 728

— ワ —

- 若山牧水 317, 732
和氣公遺跡碑 789
和氣公址 413
和氣神社 780
和氣清麻呂 324, 325, 780, 790
和氣の湯 156
俳優(わざおぎ)の民 51

平山家	249	溝見廻	242
平山忠続	230	南日本新聞	497, 876
— フ —		宮地惣右衛門	272
福昌寺	268	ミヤマキリンマ	16, 711
福永助十郎	230, 231, 272	妙見温泉	754
藤原不比等	114, 120	妙見神社	20, 299
仏法僧鳥(ブッポウソウ)	281	妙見の湯	412
賦米(賦役米)	252	名頭	244, 245
麓	241	— ム —	
文化財少年団	687	霧氷	21
文之	266	無屋敷土	250
不動池	728	— モ —	
— ハ —		用松(持松)	173, 181, 220
兵衛察見	259	森市介	205, 268, 356, 379
— ホ —		森家	256
宝篋(ほうとう)印塔	213, 214, 791	森良邦	265
方限	244, 245	— ャ —	
鉢投温泉	744	役米	252
宝塔	215, 218, 791	陽侯史麻呂	114
火須勢理命	51	山の幸	50, 51
北郷氏系図	197	邪馬台国	81
梵字	220	ヤマトタケル	99
本府	272	— ュ —	
— マ —		湯ノ谷温泉	743
牧園町総合運動場	702	— ョ —	
牧園小学校	269, 656, 797	横川氏	189
馬込甌穴群	758, 759, 760	横瀬温泉	740
丸岡山	725	横目	241
丸尾温泉	736, 737	与謝野晶子	318, 411, 733
丸尾滝	9, 729, 731	吉田蘭臯	273, 320
万膳	35, 248	吉野ヶ里遺跡	80
— ミ —		— ラ —	
水原秋桜子	732	ラムネ温泉	753
溝下見掛	250		

索引

田の神講	861	中津川	112, 141, 146, 248
丹後局	165	永留氏	213, 214, 215, 217
檀那	253	永留氏系図	214
— チ —		中野古墳	92
秩禄処分	354	名子	244
中陵漫筆	309, 312	南洲翁宿営の跡	788
朝貢	121, 122, 123, 124	— ニ —	
微兵令	353	日本書記	44, 47, 55, 100
調庸	127, 128	二十四節氣	833
条里制	130, 139	二歳咄格式定書	249
— ツ —		— ネ —	
ツゴドン墓	792	年間行事	804
津曲兼值	248	— ノ —	
— テ —		農村婦人の家と生活改善センタ	
帝紀	44, 46	—	539, 540, 541
手島森右衛門	264	ノカイドウ	710
鉄砲身構秘法	263	野町	254
寺請	266, 301	— ハ —	
寺請制度	253, 301, 357	幕藩体制	234, 301
寺田屋騒動	330	枠見廻	242
天狗	322	八幡	300
— ト —		はつい	288
東郷源七郎忠直	203, 204, 793	八田知紀	151, 323
東光寺	268, 797	早馬サア	295
東郷重位	258	林田温泉	738, 739
トシツ	290	ハリサシ	288
富尾寺	270	藩政要録	249
虎狩	230, 231	— ヒ —	
動物	717, 718	B & G財団牧園海洋センター	688
— ナ —		挽き鋸	288
仲川郷	115, 118, 146	比志島家	248
中岳	13, 721	卑弥呼	81
永田与右衛門	265	百二外城	239
仲ツ川	151, 199, 221	ヒヤスイ	290

三角(さんかく)堂	299, 796	新湯	351, 848
三国名勝図会	49, 53, 54, 146, 273	新湯温泉	742
三合米	252	—ス—	
三躰堂	20, 92, 134, 139, 229	水天宮	782
三代堂城	188, 207, 227	すき	283
—シ—			
塩浸温泉	10, 338, 748, 752	—セ—	
地固め歌	288	生活改善センター	541
宿窪田	34, 92, 205, 247	世紀	60
自顯流	258	成形図説	272
示現流	258	青少年の家	689
示現流次第秘法	259	性理の説	266
示現流比喩	259	西暦	58
十干	825	石鎚	65, 76
地頭	241, 243	関平温泉	740, 741
地頭仮屋	241	石斧	65, 73, 76
司馬遼太郎	338	セッダ(雪駄)	289
唱更国	106, 107	石敢当	296
島津氏略系図	168, 224, 226	—ソ—	
島津庄	168	造士館	330
杓取り	306	曾我どん墓	213, 991
十二支	826	—タ—	
襲峯一覧	313	太閤検地	228, 236
宗門改役	240	太鼓踊	258, 834
守護代	240	大山野	250
朱子学	265	代米	252
生涯学習	681, 691, 692	平季基	166
常備隊	348	台明寺文書	131, 133, 134
正福寺	783	高尾山寺址	156
庄屋	242	高千穂	36, 53, 223
植樹祭	798	高千穂の峯	8, 13, 16, 719
白尾国柱	323, 331	高智穂の峯	308, 719
白坂美濃守	247	高千穂河原	726
白鳥山	725	竹原田	131, 134, 140, 141
親幸	302	堅神社	199, 200, 777, 865
真宗の解禁	355	堅大明神	300
真福院	301, 797		
新燃岳	8, 13, 16, 722		

索引

カタメスタダイ	290	桑原郡	115, 141, 142, 147
河伯祭り	153	郡長	352, 370
カテモン	290	— ケ —	
門	240, 252	桂庵	266
門付山	278	警護番役	180
家部	244	元寇防星	182
学校給食センター	677	ケンジ(床献酬)	288
亀園淵	153	玄積和尚	268
韓国宇豆峯神社	139	玄龍寺	270
韓国岳	8, 12, 14, 723	— コ —	
韓国嶽	139	飫缶	725
川上助七久如	243	古事記	44, 48, 55, 100
観光姉妹町	707	郷校	356
雁爪	283	郷士	249, 258, 272
欠米	251	郷土年寄	241
— キ —			
魏志倭人伝	80, 81	公定価格	355
北原氏	200, 203	郡奉行	240
北原氏系図	201, 202	郡見廻	242
逆修塔	215, 217	黒曜石	61, 91
旧辞	44, 46	戸長制	348, 351
給地高	240, 251	— サ —	
弓道口伝秘法	264	西郷	152, 331, 364, 368
牛馬役	242	税所氏系図	190, 192
清丸	324	税所氏	190, 193, 195, 197
霧島温泉	735, 761	税所祠	197
霧島神社	796	斎藤茂吉	414, 732
霧島閑	441, 876	坂本龍馬	338, 755, 757
霧島国際音楽祭	691, 762	薩藩画人伝	272
— ク —			
熊襲穴居跡	790	薩藩政要録	244
くまその洞穴	96	薩藩名勝考	326
組頭	241	薩摩見聞記	254, 332
蔵入高	251	さつま寺	305
桑東郷	115, 132, 136, 170, 194	薩藩樟脳	279
桑西郷	117, 171, 174	薩藩府学板	250, 327
久波波良	115	相良氏	225, 227
		士踊り	258

◆牧園町郷土誌索引

—ア—

- 赤枠 283, 285
 草上村 134, 139
 畦地観音 324
 暖(あつかい) 241, 249
 天逆矛 53, 54, 55
 天降川 4, 9, 10
 有田川 19
 有馬新七 330
 荒田 296
 安楽の温泉神社 246, 753

—イ—

- 飯富神社 299, 774
 硫黄谷温泉 315, 739
 伊邪那岐神社 776
 石築地役 181
 伊集院氏 248
 板碑 218, 219, 220
 一門家 239
 一りん坊 320
 一所持 239
 伊東草臣 790
 稲造踊り 842
 稲積翁 153, 156, 157, 790
 稲積郷 97, 117, 119, 146
 稲積城 97, 102, 103, 104, 118, 119, 145
 稲積の里 141, 145
 稲富流 262
 犬飼滝 10, 297, 324, 757
 用夫のがれ 244
 いぼ地蔵 298
 いろは歌 266
 祝橋 853

—ウ—

- うえ木高 252
 浮免 250
 海の幸 50, 51
 梅北氏 248
 上井覚兼 324

—エ—

- 額娃家 249
 永作 250
 エドヒガン 801
 栄之尾温泉 315, 793
 可愛峠の湯 272

—オ—

- オイツサマの墓 795
 鮎穴群 758, 759
 小碓城 96, 853
 大伴旅人 114
 大浪池 7, 9, 13, 726
 大庭正庵 265
 踊 188, 189, 197, 205
 踊川 19
 踊郷 20, 97, 142, 188, 348
 踊城 142, 188, 205, 792
 御鉢 719
 餅肥 237
 折橋温泉 754, 755
 温泉神社 778

—カ—

- 海音寺潮五郎 732
 改田城 206
 貝塚 77
 抱地 249
 笠取戦跡 789
 笠取峠 369
 刈敷 283

牧園町郷土誌 改訂版

平成三年十月三十六日発印刷

編集者 牧園町郷土誌編さん委員会
発行者 牧園町長 川 畑 義 照

印刷所 第一法規出版株式会社

九州支社 福岡市中央区大手門三丁目五一一
(TEL)〇九二(七四一)六〇〇六

今年正月廿二夜の事にて、此女を人間也
かねども、此鳥の命へ爲す事無く、此女一
きに死んでしまひ、此女死後、此女死後、

古文
序

李本
柳氏

種之將作

不書古今

和喜之別稱作女也

りふりふ

卷之三

卷之三

伊賀某の老母神通玉の宮主もまたお人間としてよしはん其の御子の山田吉一とお母を本領をわざさず二人ハ曾木中川の宮の御子

彦和吉——般支とはうし人也

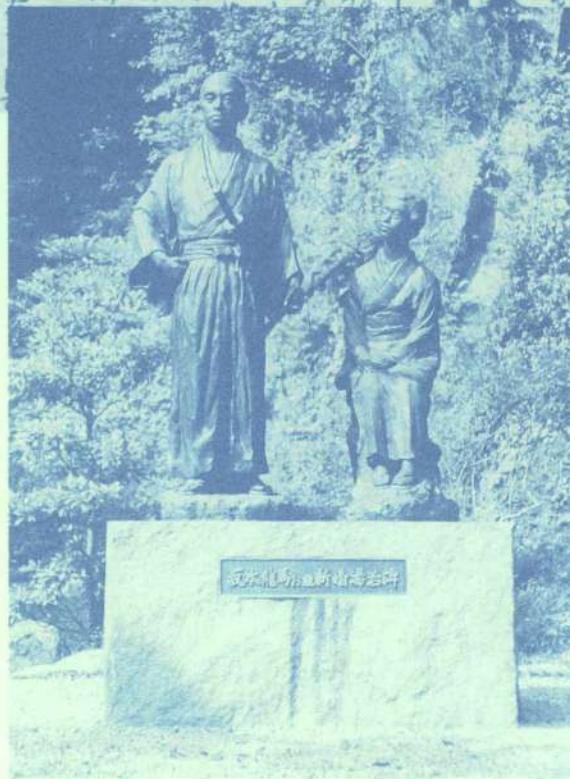
卷之三

大場下り四日一泊の間、馬鹿の

吉井章助
著
新編
五經圖

の如きをひ不満の如きの如く布へかす。

中村の事もさうか、宝井の外



坂本龍馬お龍新婚湯治碑

坂本龍馬の手紙



「其の山の大形ハ」（上掲手紙左端部のスケッチ）

